



高層団地に囲まれた秋の陽（あきのひ）公園の水田で 小学生が田植えを体験！

と き 5月14日（木） 午前9時30分～11時30分

と ころ 区立秋の陽（あきのひ）公園（光が丘2-5-2）

14日、区立秋の陽公園の水田（約500㎡）で、近隣の区立小学校4校の5年生児童が、田植えを体験した。

参加した子どもたちは、区職員から田植えの方法や、稲の成長過程について説明を受けた後、裸足で水田に入り、田植えを行った。終了後、児童達は「今日植えた苗が育って、収穫祭でお餅を作るのが楽しみ!」「苗の持ち方が難しかったけど、丁寧に教えてもらったので上手に植えられた」

「これからお米を食べるときは、今日の田植えを思い出そう。お米を作るのが大変と分かったので、これからは食べ残さないようにしたい」と話していた。

田植え体験は、都会では珍しい体験を子どもたちが楽しむとともに、お米の大切さを知ってもらうことを目的に、開園(昭和63年)以来、毎年実施しており、今年で28回目を迎える。水田を管理する東部公園出張所は、「児童に田植えを体験してもらうことで、毎日のように食べているお米のありがたみを感じてもらいたい」と話している。今回植えた苗は10月ごろに刈り入れ、約120キロ(例年)のもち米となり、各学校で餅つきや給食で味わう予定。



苗の位置を気にしながら丁寧に植えていく

【当日の様子】

見事に晴れ渡った青空の下、カエルの大合唱に迎えられ、元気いっぱいの子供たちが水田の前に集合した。

まず、区職員が水田に入り、苗の持ち方から植え方まで田植えの手順を説明。一通り説明が終わると、7、8人の児童が一人10株の苗を持ち、水田の中で一列に並んだ。足跡でくぼんだ場所の泥を平らにならしながら、等間隔に植えられるように張られたロープ沿いに、慣れない手つきで苗を植え付けていった。

【今後の予定】

今後は、区東部公園出張所が水田を管理する。苗は順調に生育すると9月下旬から10月初旬に稲刈りの時期を迎え、約120キロのもち米として収穫する予定。収穫後は、学校で餅つき大会や給食の材料に使用するという。

【会場・参加児童数について】

「田んぼのある公園」として親しまれている区立秋の陽公園（面積約18,200㎡）は、昭和初期の豊かな水田の広がる生活風景をイメージして作られた。あぜ道で6面に分けている約500㎡の水田や、農家の長屋門を模した正面入口などが特徴。苗の種類は「若草もち」という種類のもち米。

今年の田植えは、区立小学校5校の5年生が参加して、5月14～15日に実施。14日は光が丘春の風小64名、光が丘夏の雲小81名、光が丘秋の陽小82名、光が丘四季の香小69名が体験した。明日15日は、光が丘第八小57名が体験する予定で、両日合わせて353名の児童が田植えを体験する。



真剣な面持ちで説明を聞く児童たち



笑顔で田植えを楽しむ児童